

石橋コレクション

日本書画について

——日本書画調査報告——

久留米・石橋美術館学芸員 橋富 博喜

昭和五四年（一九七九）夏、東京ブリヂストン美術館において石橋財団所蔵の日本書画と、個人蔵の数点の作品を調査する機会を得た。更にはその時の調査を基にして、昭和五六年の新春（一月六日から二月一日まで）、『特別展示石橋コレクション日本画選』を石橋美術館において開催した。

本調査報告はこれらの機会に実見し、調査・写真撮影することができた日本書画のうち、石橋財団所蔵分についての基礎データの報告である。落款・印章及び画賛等については、可能なかぎり判読につとめたが不明な点も少なくない。また制作年について明確に断定できなかった作品も多い。これらの不備については、今後の調査・研究の課題と考えている。

石橋コレクションの作品のうち、西洋近代絵画、日本近代洋画についてはこれまで多くの機会に紹介され、研究もされてきたが、その日本書画については、ほとんど知られることがなかったと言える。本調査報告がそれぞれの作家研究の一助になれば幸いである。

四季山水図

四幅

一一一 春図

品質形状 絹本墨画淡彩 掛幅装
法量 七〇・六×四四・三
銘文他 卷留貼付紙墨書
「春」
時代 室町時代
作者 伝雪舟
備考 重要文化財



一一二 夏図

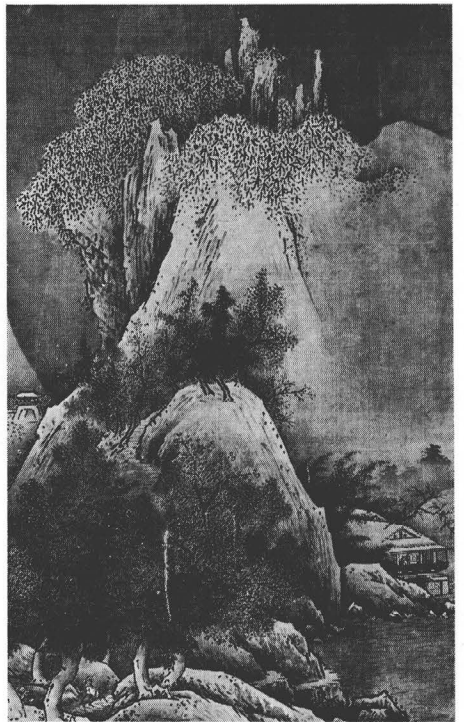
品質形状 絹本墨画淡彩 掛幅装

法量 七〇・八×四四・〇
銘文他 卷留貼付紙墨書
「夏」
時代 室町時代
作者 伝雪舟
備考 重要文化財



一一三 秋図

品質形状 絹本墨画淡彩 掛幅装
法量 七〇・八×四四・二
銘文他 卷留貼付紙墨書
「秋」
時代 室町時代
作者 伝雪舟
備考 重要文化財



一一四 冬図

品質形状 絹本墨画淡彩 掛幅装
法 量 七〇・六×四四・二
銘文 他 巻留貼付紙墨書
「冬」

一一一から一一四まで四幅共箱
桐箱蓋表墨書

「狩野法眼永真誌之
四季山水図四幅雪舟筆」
室町時代
伝 雪舟
重要文化財

雪舟（応永二七年 一四二〇—永正三年 一五〇六頃）。諱は等楊。

雪舟筆四季山水図の春・夏・秋・冬各季節を一幅ごとに描いた四幅揃いの作品としては、現在東京国立博物館所蔵の「四季山水図」がよく知られている。この東博本「四季山水図」は、その作風が中国明時代浙派の作風に通じるところから、雪舟渡明中の文明元年（一四六九）頃の制作になると考えられている。

一方石橋本「四季山水図」には落款・印章がなく、雪舟の真筆とするには積極的根拠に欠けるが、その筆致・画風には先の東博本「四季山水図」に共通する点も多い。また本「四季山水図」中の部分が、文明一八年（一四八六）の「四季山水図」（山水長巻 毛利報公会）にも見られることは注目してよい。

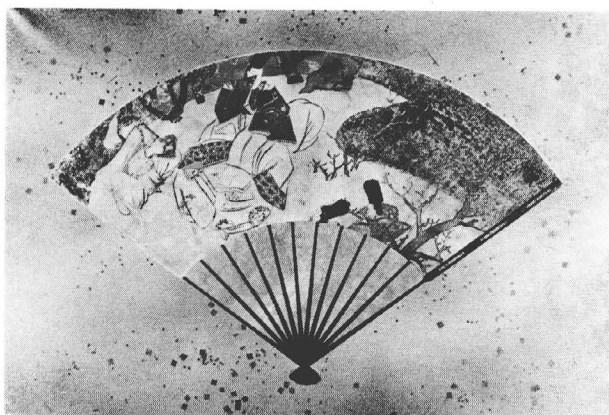
本「四季山水図」については、今後その作者、制作時期の問題を含めて更に研究する必要があると考える。

二 保元平治之乱物語絵

六枚

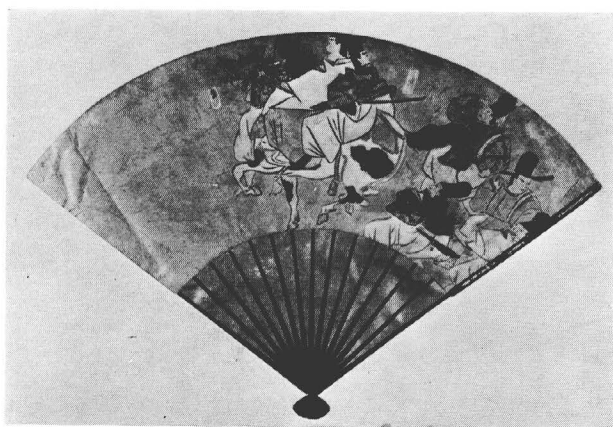
二一 保元平治之乱物語絵

品質形状 紙本着色 扇面額装
法 量 一七・八×五五・二 (幅×横)
時代 江戸時代
作者 伝 宗達



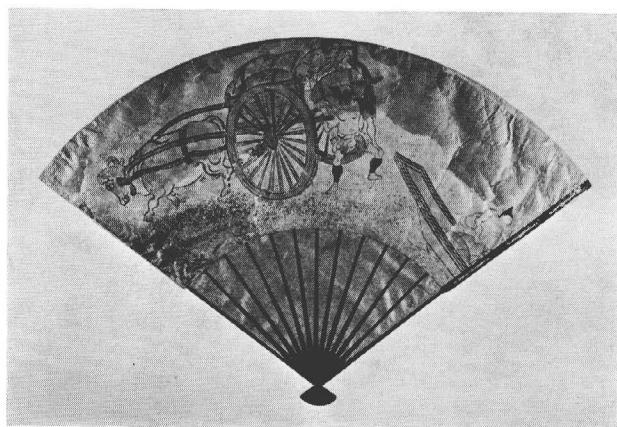
二二 保元平治之乱物語絵

品質形状 紙本着色 扇面めぐり
法 量 一八・二×五五・五 (幅×横)
銘文 他 画中墨書
「左」 「□□」
時代 江戸時代
作者 伝 宗達



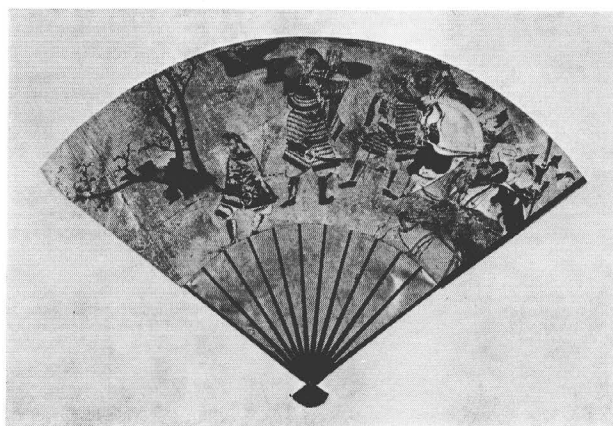
二一三 保元平治之乱物語絵

品質形状 紙本着色 扇面めぐり
 法 量 一八・四×五五・八(幅×横)
 時代 江戸時代
 作者 伝 宗達



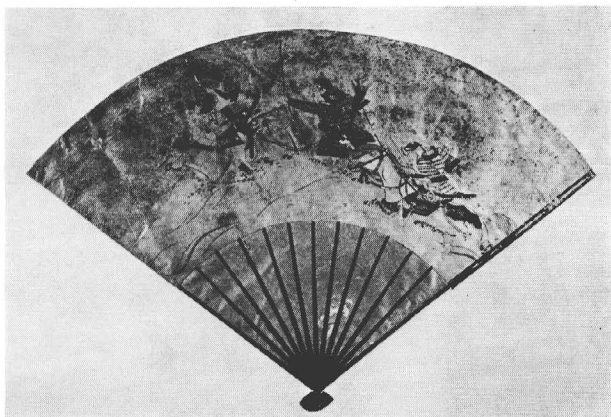
二一四 保元平治之乱物語絵

品質形状 紙本着色 扇面めぐり
 法 量 一八・三×五五・二(幅×横)
 時代 江戸時代
 作者 伝 宗達



二一五 保元平治之乱物語絵

品質形状 紙本着色 扇面めぐり
 法 量 一七・八×五五・二(幅×横)
 時 代 江戸時代
 作 者 伝 宗達

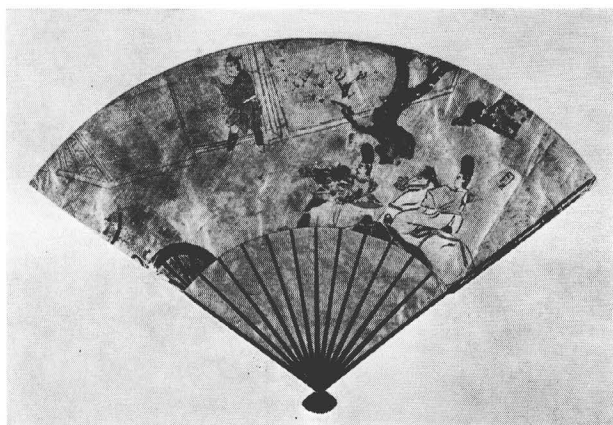


二一六 保元平治之乱物語絵

品質形状 紙本着色 扇面めぐり
 法 量 一八・二×五五・三(幅×横)
 銘文 他 画中墨書
 「家弘」「□□」

作 時
 者 代

二一から二一六まで五枚共箱
 杉箱蓋表墨書
 「俵屋宗達
 保元平治乱図
 扇面五枚」
 江戸時代
 伝 宗達



俵屋宗達(?—寛永二〇年 一六四三)の伝記については、その『源氏物語
 濡標及関屋図』(静嘉堂や『風神雷神』(建仁寺)の作者として著名であるに
 もかわらず、明らかにし得ない部分も多い。その理由として、宗達関係の文
 献及び宗達一人の手になる作品が少ないこと、あるいはその作品(伝 宗達と

して残っているものも含めて)の制作時期を断定できるものがほとんどないことなどがあげられる。

しかし一方こうした状況のなかで、宗達に関する研究も盛んに行なわれている。例えば「琳派絵画全集」(日本経済新聞社)中の「宗達派」の巻では、宗達に関することが各方面から論じられている。その中でも特に扇面図に關しての論文(『俵屋工房論』小林忠)では、石橋本「保元平治之乱物語絵」など各地に散在する作品の屏風装への復元と、工房内の三人の画家の存在が明確にされている。

「保元平治之乱物語絵」として現在所在が明らかなものは、この石橋本六枚をはじめとして、御物、醍醐寺三宝院、フリア美術館、個人蔵などを含め五〇余点が確認されている。

三 竜図

一幅

品質形状	紙本墨画 掛幅装
法 量	九二・四×二七・六
銘文 他	落款・印章(左上) 「厓(花押)」「三郎 日月」(朱文方印) 桐箱蓋表墨書 「龍 仙厓和尚筆」 同 蓋裏墨書 「竹波居士題」 同 蓋裏印一顆 「林 屯」(朱文円印)
時 代	江戸時代
作 者	仙厓義梵



四 虎溪三笑図

一幅

品質形状	紙本墨画 掛幅装
法 量	一一七・四×二七・六
銘文 他	賛 「幾回使吾憶南泉／自滿江西人不曾」 桐箱蓋表墨書 「三僧思量 仙厓和尚筆」 同 蓋裏墨書 「昭和十歲癸亥 初秋竹波居士題」 同 蓋裏印一顆 「□」(白文方印)
時 代	江戸時代
作 者	仙厓義梵



五 観音図

一幅

品質形状
法 量
銘文 他

絹本墨画 掛幅装

四二・七×一六・三

落款・印章(右下)

「厓(花押)」 「仙厓」(朱文長円印)

賛

「世の憂きを 心津具し尔 なけとて我が衣て尔波かけの岸」

「菩薩清涼月 遊畢竟空 衆生心水浄 菩提影現中」

時 代
作 者

江戸時代

仙厓義梵



六 猫鼠図

一幅

品質形状
法 量

紙本墨画 掛幅装
三五・四×五七・一

銘文 他

落款・印章(右中)

「厓(花押)」 「仙厓」(朱文長円印)

賛

「猫の子を馬鹿尔志たら違いま直よ」

時 代
作 者

江戸時代

仙厓義梵



七 高良山詩幅

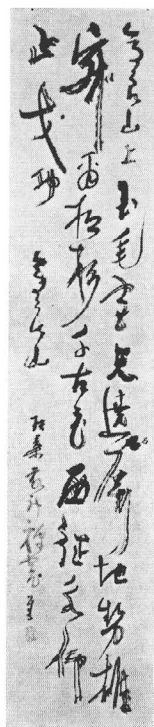
一幅

品質形状
法 量

紙本墨書 掛幅装
一三三・二×二八・二

銘文他

落款・印章（左下）
 「扶桑最初禪窟 匡」
 「仙匡」（朱文長門印）
 桐箱蓋表墨書
 「高良山之詩 仙匡和尚筆」
 同 蓋裏墨書
 「昭和十歲□乙亥初秋竹波居士題」
 江戸時代
 仙匡義梵
 高良山之詩
 「高良山上玉垂宮見遠石屏地勢雄寂爾松杉千古年西征宮師正戈功」



仙匡義梵（寛延三年 一七五〇—天保八年 一八三七）。博多聖福寺（臨濟宗妙心寺派）の第一二三、一二五世。

〈観音図〉と同じ観音を描く作品が、〈白衣観音図〉として現在永青文庫に残されている。〈観音図〉が画面中央に観音をすえ、背景の岩まで描くのに対して、〈白衣観音図〉では観音のみを描いている。また賛も左からで、「世の憂きを……」の賛は記さない。落款は「梵仙匡拜画」で印は押さない。

また出光美術館には、石橋本〈観音図〉と同じ画賛を着す〈瀧見観音〉があり、出光本には「文政丁亥十月扶桑最初禪窟梵仙匡拜画」、「仙匡」の落款・印章を記す。

八 飲中八仙図

一幅

品質形状
 法 量
 銘文 他

紙本着色 掛幅装
 一三五・〇×三三・二
 落款・印章（左上）
 「鐵轡人寫」
 「鍊」 「足蹟」
 道（朱文方印） 遍天下」（白文方印）
 人」

賛

「知章騎馬似乘船眼花落井水底眼／汝陽三斗始期天道逢麴車口流
 涎恨／不移封泉酒泉左相日興費萬／錢飲如長鯨吸百川御盃樂聖／
 稱世賢宗之瀟酒美少年舉／觴白眼望青天皎如五樹臨／風前燕晉長
 齋繡佛前／醉中往々愛逃禪李白一斗／詩百篇長安市上酒家眠／天
 子呼來不止船自稱臣是／酒中仙張旭三盃草聖傳脫／帽露頂王公前
 揮毫落紙／如雲烟焦遂五斗方卓然高／雄辯驚三筵／右杜少陵」

不詳

富岡鉄斎

作 時
 者 代



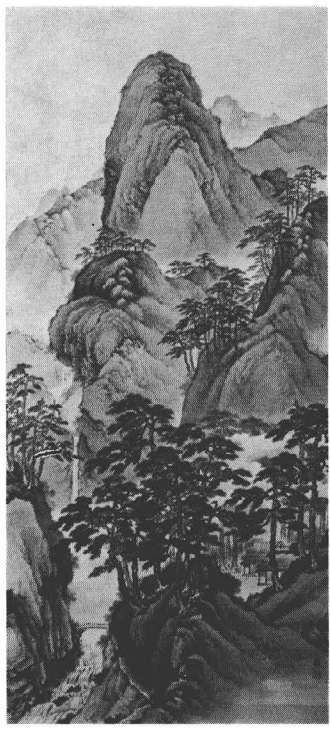


九 谿山疊翠図

一幅

品質形状
法 量
銘文 他
絹本着色 掛幅装
一六九・二×七〇・八
落款・印章(右下)
「小蘋」 「小蘋 女史」 (朱文方印)
桐箱蓋表墨書
「谿山疊翠図 野口小蘋筆 壹幅」
同 蓋裏墨書
「明治三十二年十月 日本美術協會御用品」
同 蓋裏印一顆(朱文方印)
「大正元年／先帝御遺／物之章」
卷留貼付金紙墨書
「谿山疊翠図」
明治三二年(一八九九)
野口小蘋

時 代
作 者
野口小蘋



富岡鉄斎(天保七年 一八三六―大正一三年 一九二四)。名は百鍊、字は無倦、學古書院と称す。

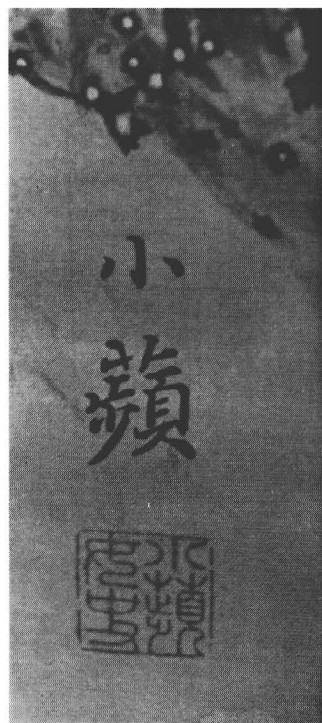
飲中八仙とは、唐代の詩人で酒に耽るもの八人を意味している。その八仙は、賀知章、汝陽王、李適之、崔宗之、蘇晋、李太白、張旭、焦遂の八人である。杜甫の詩に「飲中八仙歌」がある。参考までにその全文を以下に記す。

飲中八仙歌 杜甫

「知章騎馬似乘船 眼花落井水底眠
汝陽三斗始朝天 道逢麴車口流涎
恨不移封向酒泉 左相日興費萬錢
飲如長鯨吸百川 銜杯樂聖稱避賢
宗之蕭灑美少年 舉觴白眼望青天
皎如五樹臨風前 蘇晉長齋繡佛前
醉中往往愛逃禪 李白一斗詩百篇
長安市上酒家眠 天子呼來不止船
自稱臣是酒中仙 張旭三杯草聖傳
脫帽露頂王公前 揮毫落紙如雲烟
焦遂五斗方卓然 高談雄辯驚四筵」

〔中国詩人選集一〇 杜甫 下〕

吉川幸次郎・小川環樹 編集・校閲 岩波書店 一九五九年



野口小嶺（弘化四年 一八四七—大正六年 一九一七）。本名親、字は清婉、小嶺と号す。

《谿山疊翠図》は、その蓋裏墨書でわかるように、明治三三年（一八九九）の日本美術協会展に出品されたものである。翌々年の明治三四年、同協会展に出品された《秋草》は金牌を受け、皇后陛下の御用品となっている。

一〇 秋景富嶽図

一幅

品質形状
法 量
銘文 他

紙本淡彩 掛幅装

四六・〇×四八・三

落款・印章（右下）

「栖鳳」「霞中

山房」（白文長方印）

桐箱蓋表墨書

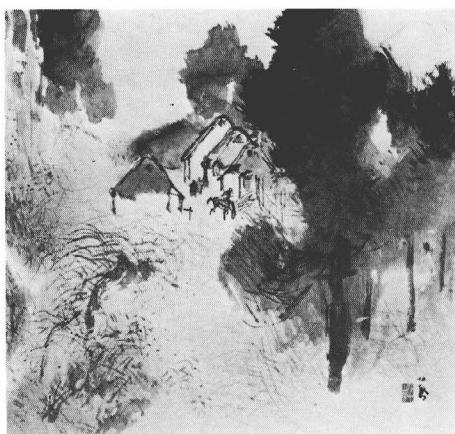
「富嶽」

同 蓋裏墨書

「昭和癸酉初冬 栖鳳題」

時 代
作 者

同 蓋裏印一顆
「高
幹」（白文方印）
昭和八年（一九三三）
竹内栖鳳



一一 錦秋図

一幅

品質形状
法 量
銘文 他

絹本淡彩 掛幅装

四四・六×五〇・七

落款・印章（右上）

「栖鳳」「霞中

菴」（白文方印）

桐箱蓋表墨書

品質形状
法 量

紙本墨画 掛幅装
三〇・四×二九・九

一二 溪山雨後

一幅



作 時

者 代

「錦秋」
同 蓋裏墨書
「栖鳳題」
同 蓋裏印一顆
「高 幹」 (白文方印)
大正末—昭和初期
竹内栖鳳

作 時

者 代

銘文 他



落歎・印章 (左上)
「栖鳳／作於／霞中／菴」
「高 幹」 (白文方印)
桐箱蓋表墨書
「溪山雨後」
同 蓋裏墨書
「栖鳳題」
同 蓋裏印一顆
「高 幹」 (白文方印)
昭和二年 (一九二七) 頃
竹内栖鳳



竹内栖鳳（元治元年 一八六四―昭和一七年 一九四二）。名は恒吉、字は高幹、栖鳳と号す。

栖鳳は其の居を「畊漁荘」、京都嵯峨の別荘を「霞中庵」と称している。各幅の制作時期は、〈秋景富嶽図〉がその蓋裏墨書から昭和八年（一九三三）、〈錦秋図〉はその印章「霞中庵」を他例にもとめると、大正七年（一九一八）の〈床やま〉、同一五年の〈古城松翠〉等に見ることができ、本図もほぼその時期（大正末から昭和初期）に制作されたものと考えられる。最後に〈溪山雨後〉の落款・印章と同じものが、昭和二年（一九二七）の〈江南風光〉に見られ、〈溪山雨後〉もほぼ同時期の制作になるものと考えられる。

二三 江村南風

一幅

品質形状 紙本墨画 掛幅装
法 量 四六・二×五三・八
銘文 他 落款・印章（右下）
「芋銭子」「无描所」（白文長方印）

画中墨書

「江村／南風／有黄花」

時代 昭和初期
作者 小川芋銭



小川芋銭（慶応四年 一八六八―昭和一三年 一九三八）。幼名不動太郎、のち茂吉と改める。

〈江村南風〉における落款・印章「芋銭子」「无描所」は、昭和六年（一九三一）の〈河童〉、同七年の〈海島秋来〉（二点とも茨城県立美術館蔵）などに見ることができる。また「无描所」の印は、斎藤隆三著『大痴芋銭』によれば、昭和初年以來用いたものであるという。

一四 糺の森

一幅

品質形状 絹本着色 掛幅装
法 量 五〇・五×七〇・七
銘文 他 落款・印章（左下）

時 作

代 者

「大観」 「大観」(朱文長円印)
桐箱蓋表墨書
「糺の森秋雨」
同 蓋裏墨書
「大観白題」
同 蓋裏印一顆
「大観」(朱文円印)
不詳
横山大観

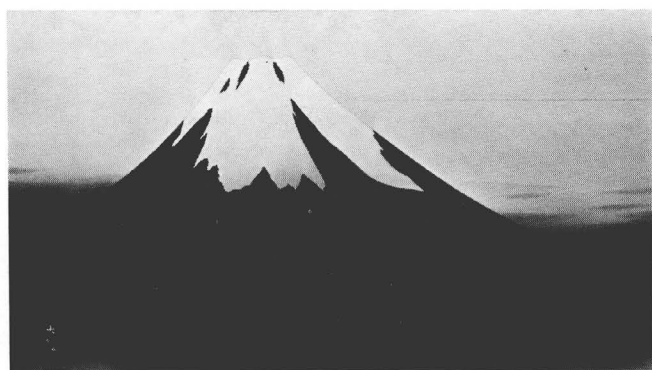


一五 不二(富士) 図

一幅

品質形状
法 量

絹本着色 掛幅装
六七・八×一一五・三



時 作

代 者

銘文 他
落款・印章(左下)
「大観」 「鉦鼓
洞主」 (朱文方印)
桐箱蓋表墨書
「神州第一峰」
同 蓋裏墨書
「昭和五年七月中院為石橋君清曠大観謹畫」
同 蓋裏印一顆
「鉦鼓洞主」(白文長方印)
昭和五年(一九三〇)
横山大観



横山大観（明治元年 一八六八—昭和三年 一九五八）。

〈不二（富士）図〉蓋裏墨書でわかるように、本図は昭和五年（一九三〇）八月、秩父宮及び同妃の久留米石橋正二郎邸に御滞在の折に、石橋正二郎が何人かの画家に委嘱した作品のひとつである。現在その当時の記録としては、昭和五年八月発行の『秩父宮同妃殿下御滞泊記念写真帖』（以下『写真帖』という）が残っていて、その中にこの大観〈不二（富士）図〉をはじめとする二五点の作品写真が掲載されている。

一六 飛瀑双幅

二幅

一六一一 右幅

品質形状	絹本着色 掛幅装
法量	一三六・六×四九・五
銘文 他	落款・印章（右下） 「等観模」「等観」（朱文方印）
時代	昭和五年（一九三〇）
作者	筆谷等観

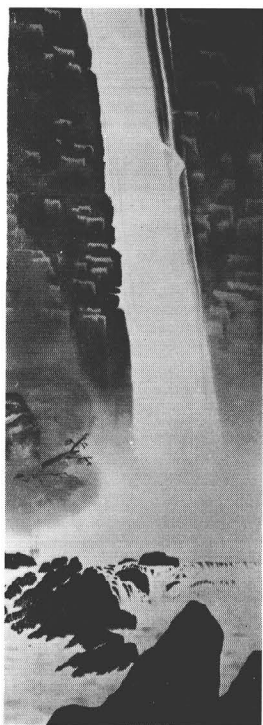


一六一二 左幅

品質形状	絹本着色 掛幅装
法量	一三六・五×四九・五
銘文 他	落款・印章（左下） 「等観模」「等観」（朱文方印）

時代	昭和五年（一九三〇）
作者	筆谷等観

桐箱蓋表墨書
「飛瀑雙幅」
同 蓋裏墨書
「昭和五年夏 等観」
同 蓋裏印一顆
「等観」（朱文方印）



筆谷等観（明治八年 一八七五—昭和二五年 一九五〇）。本名儀三郎、白夢樓とも号す。

〈飛瀑双幅〉は先の昭和五年『写真帖』に掲載さる。更に蓋裏墨書により、本図も石橋正二郎の委嘱によるものである。

一七 風潮咬鶴

一幅

品質形状 絹本着色 掛幅装
法 量 一一八・二×三二・九
銘文 他 落款・印章(右下)

「百穂」「百穂
画印」(朱文方印)

桐箱蓋表墨書

「風潮咬鶴」

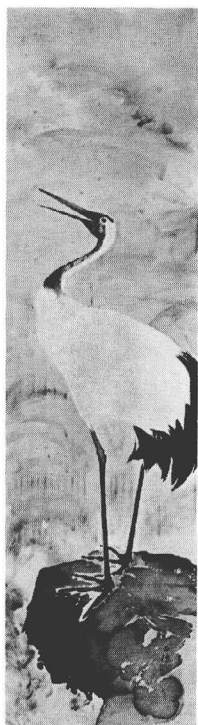
同 蓋裏墨書

「百穂自題」

同 蓋裏印一顆

「百穂」(白文方印)

時 代 昭和初期
作 者 平福百穂



平福百穂(明治一〇年—一八七七—昭和八年—一九三三)。名は貞蔵。
百穂の鶴の絵の著名な作品としては、大正一五年(一九二六)の「丹鶴青
瀾」(六曲一双)があげられる。本図は大正天皇御大婚満二五周年を祝って参
議院から献上されたものである。本図の左隻、波打ち寄せる岩の上に立つ鶴の

姿は、向きは逆であるが、そのまま「風潮咬鶴」の鶴として描かれている。し
かしその画面にあらわれた迫力は「丹鶴青瀾」のそれに及ぶべくもない。「風
潮咬鶴」は一種の習作というべきか。

一八 梢白鷺図

一幅

品質形状 絹本着色 掛幅装
法 量 一三九・二×五〇・二
銘文 他 落款・印章(左下)

「溪山人」「溪
人山」(朱文方印)

桐箱蓋表墨書

「梢白鷺図」

同 蓋裏墨書

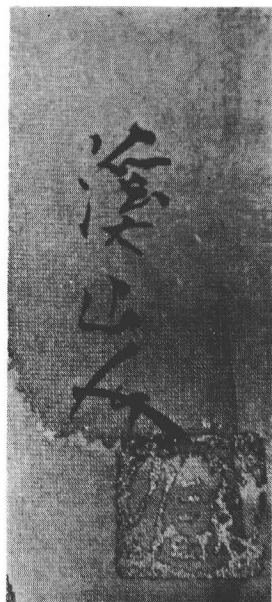
「溪山人句題四志」

同 蓋裏印一顆

「溪仙翁」(朱文方印)

時 代 昭和初期
作 者 富田溪仙





一九 昇鯉図

一幅

品質形状
法 量
銘文 他

絹本着色 掛幅装
一四二・五×五〇・九
印章(左下)

「溪人山」(朱文方印)

桐箱蓋表墨書

「飛泉茂昇百鯉図」

同 蓋裏墨書

「昭和五庚午年七月

秩父宮殿下

御□下の砌 石橋正二郎氏邸乃新御殿に／成
らせ□その御坐所の床懸けの清嘯ニ應じ／恭謹 玆に執筆す
並ニ題簽」

同 蓋裏墨書

「京都 富田溪山識」

同 蓋裏印一顆

「久彭

子」(朱文方印)

昭和五年(一九三〇)

富田溪仙

時 代
作 者



富田溪仙(明治二年 一八七九―昭和十一年一九三六)。本名鎮五郎、字は隆鎮、雪仙、溪山人、久彭子、久彭庵等の別号がある。

溪仙は好んで鵜、鷺、鹿等を題材に選んで描いている。また鷺の場合合梢や枝にとまっている絵が多い。例えば昭和六年(一九三二)の「枝の鷺」(紙本墨画、掛幅装)、同年の「迅瀬の鵜・梢の鷺」(紙本着色二曲一双)の左隻などでは、いずれも立ち木の枝にとまっている鷺を描いている。本「梢白鷺図」もその構図、筆致、落款・印章等からみて、ほぼ同時期の制作になるものと考えられる。

「昇鯉図」はその蓋裏墨書でもわかるように昭和五年の作で、前述の『写真帖』にも見られる。

二〇 函峽帰帆図

一幅

品質形状
法 量
銘文 他

絹本着色 掛幅装
四三・五×五六・八
落款・印章(右上)

「戊辰之／歳初／冬寫／関雪／外史」

「関雪」(朱文方印)

時 作

代 者



同 印一顆(右下)

「白沙村莊」(白文方印)

同 印一顆(左下)

「卿□枝旬」(白文長方印)

贊

「眼底江山／畫得成／峰無起式／峯生黃／牛西望望／塘峙落筆／檐聞風／雨聲」

桐箱蓋表墨書

「亟峽歸帆図」

同 蓋裏墨書

「戊辰之歲臘月自読於幹正白沙村莊主人識」

同 蓋裏印一顆

「潤雪」

□□ (白文方印)

昭和三年(一九二八)

橋本関雪

品質形状
法 量
銘文 他

紙本墨画 掛幅装

五四・〇×六四・八

落款・印章(右下)

「浩一路寫」

「浩」(朱文方印)

一路

桐箱蓋表墨書

「天草風景」

同 蓋裏墨書

「昭和五年八月／秩父宮同妃兩殿下為太刀洗飛行隊御見學当地御

二 二 曉港(島原港)

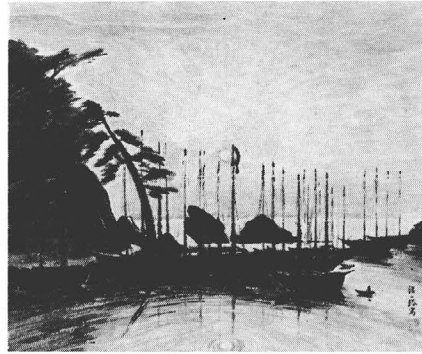
一幅

橋本関雪(明治一六年 一八八三—昭和二〇年 一九四五)。本名関一。
大正二年(一九一三)京都市左京区浄土寺に「白沙村莊」をつくる。



時 代
作 者

滞在之間以石橋正二郎氏邸／令為駐駕御泊之處焉石橋氏為紀念此
光榮囑余作之」
同 蓋裏墨書
「浩一路識」
同 蓋裏印一顆
「萬□□ (白文長方印)
路而□」
昭和五年(一九三〇)
近藤浩一路



二二
暁月

一幅

品質形状
法 量 紙本墨画 掛幅装
銘文 他 四三・八×五三・四
落款・印章(右下)

時 代
作 者

「浩一路寫」
「浩一路」(白文長方印)
桐箱蓋表墨書
「暁月」
同 蓋裏墨書
「浩一路題」
同 蓋裏印一顆
「画蟲齋」
昭和初期
近藤浩一路



近藤浩一路(明治一七年 一八八四―昭和三七年 一九六二)。本名は浩(こ
う)、土筆居、画蟲齋と号す。

「暁月(島原港)」は蓋裏墨書でわかるように昭和五年の作で、先の昭和五年
『写真帖』にも掲載さる。「暁月」もほぼ同時期の制作になるものと思われる。

二三 木菟

一幅

品質形状
法 量
銘文 他

紙本墨画 掛幅装
四二・四×六二・四
落款・印章（右下）

「龍子」□□（朱文円印）
桐箱蓋表墨書

「竹夜」

同 蓋裏墨書

「龍子自題」

同 蓋裏印一顆

「龍子」
（朱文方印）

不詳

川端龍子



二四 白梅図

一幅

品質形状
法 量
銘文 他

紙本金地着色 掛幅装
二三・四×二〇・四
落款・印章（左下）

「龍子」□□（朱文円印）
桐箱蓋表墨書

「白梅図」

同 蓋裏墨書

「龍子自題」

同 裏蓋印一顆

「龍子」
（朱文方印）

不詳

川端龍子

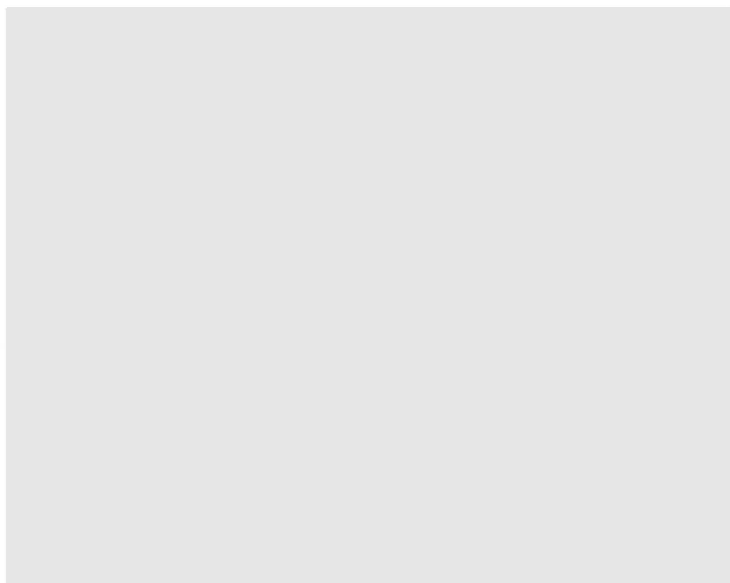


川端龍子（明治一八年 一八八五―昭和四一年 一九六六）。本名昇太郎。

二五 日の出鶴

一点

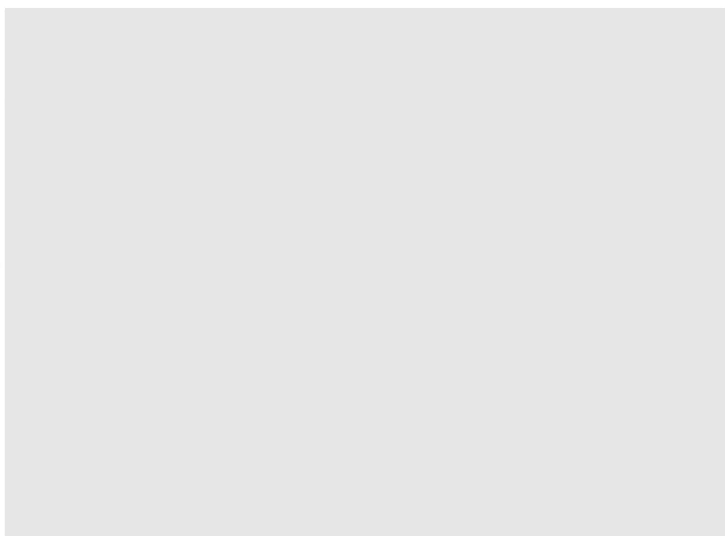
品質形状	紙本着色 額装
法量	四一・八×五三・六
銘文他	落款・印章(右下)
	「青邨」[□] (朱文六角印)
時代	昭和四〇年代
作者	前田青邨



二六 紅白梅

一点

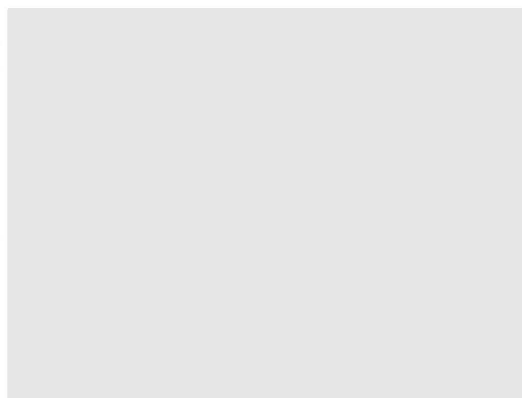
品質形状	紙本着色 額装
法量	五五・五×七七・〇
銘文他	落款・印章(右下)
	「青邨」[青] (朱文長方印)
時代	昭和四五年(一九七〇)頃
作者	前田青邨



二七 獅子図

一点

品質形状 紙本金地着色 額装
法 量 五二・八×六八・〇
銘文 印章(右下)
他 「青
邨」(白文方印)
時代 昭和二〇年(一九三五)頃
作者 前田青邨

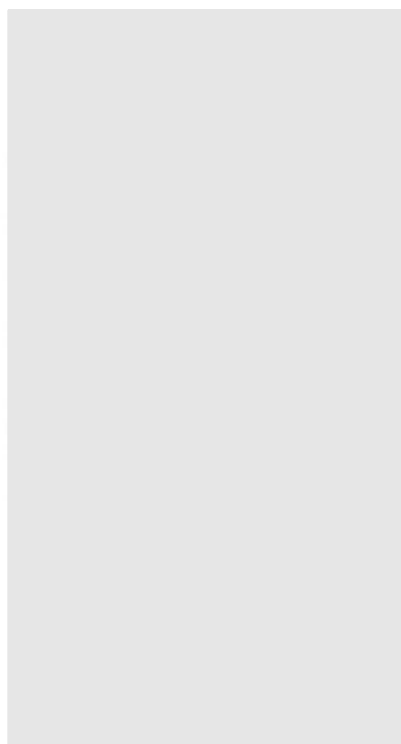


二八 風神雷神

一幅

品質形状 紙本墨画 掛幅装
法 量 二〇五・五×一〇八・五
銘文 落款・印章(左下)
他 「青邨」「青
邨」(白文方印)

時代 昭和二四年(一九四九)頃
作者 前田青邨



前田青邨(明治一八年一八八五―昭和五二年一九七七)。本名廉造。所蔵品の四点については、いずれも青邨の作品の中に類似例をみることができ。例えば、《日の出鶴》は昭和四〇年(一九六五)の《千羽鶴》に、《紅白梅》は同名の昭和三七年の作品から昭和四四年の《つれづれ草》、同四五年の《梅日和》、同四八年の《奈良の鶴の子》、同年の《水辺春暖》へと続く一連の

作品に類似する。また「獅子図」は昭和一〇年に岩崎家から天皇へ献上された「唐獅子」の右隻から親獅子を、左隻から子獅子をとり入れた構図であり、その「唐獅子」の下絵として本「獅子図」と同構図のデッサンも残っている。更に「風神雷神」は、昭和二四年（一九四九）の第三四回院展に出品された同題名のそれと構図・筆致において全く同じでただ落款・印章が異なるのみである。

二九 双鯉

一幅

品質形状 紙本淡彩 掛幅装
法 量 一二五・六×三三・〇
銘文 他 落款・印章（右下）
「南風」「□泉作琴」（朱文長方印）
時代 不詳
作者 堅山南風

品質形状 絹本淡彩 掛幅装
法 量 一三七・四×四九・九
銘文 他 落款・印章（右下）
「南風」「南風」（朱文方印）
時代 不詳
作者 堅山南風

堅山南風（明治二〇年 一八八七―昭和五五年 一九八〇）。本名熊次。豪
簞居（たぐやくぎよ）、望月居、久雅二と号す。

三一 游鯉

一幅

品質形状 紙本着色 掛幅装
法 量 五四・二×五九・三
銘文 他 落款・印章（右下）
「神泉」「神泉」（朱文方印）
桐箱蓋表墨書
「游鯉」

三〇 鯉

一幅

〔註——法量はセンチメートルで表記されている。〕

時 作

代 者

同 蓋裏墨書

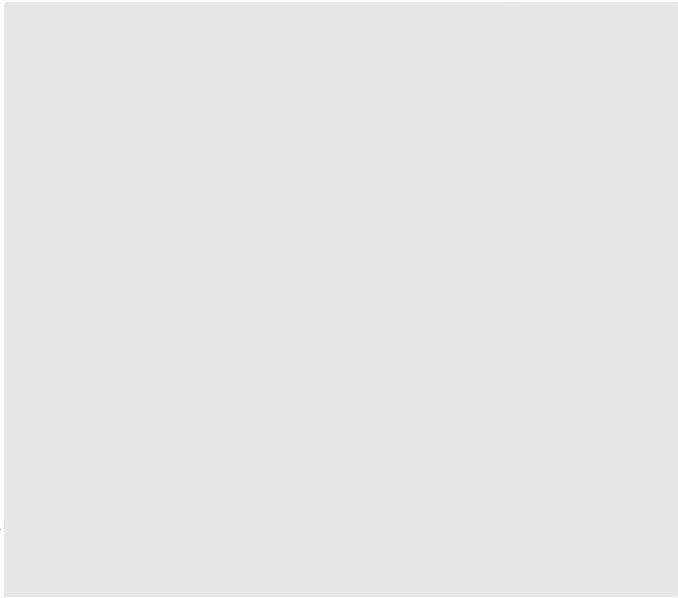
「神泉」

同 蓋裏印一顆

「神泉」
(朱文方印)

不詳

徳岡神泉



徳岡神泉(明治二九年 一八九六―昭和四七 一九七二)。本名時次郎。